

未来の子供たちが安心して暮らせるために 灰溶融炉でない選択肢を！

ごみを減量化して真の循環型社会を目指そう！

休戸区と花場区が、灰溶融炉建設の同意書撤回と建設の中止を求める。

1月15日、休戸区と花場区は、南諏衛生施設組合長に対し、平成16年に取り交わした**同意書の撤回と建設の中止**を求め、申し入れを行ったが、組合長矢嶋民雄氏は申し入れを拒否した。そのため、同両区は、17日に同撤回書等を、内容証明郵便にて同組合長に送付した。

大武川区アンケート結果 住民の91.5%が建設に反対。

大武川区は、1月に成人区民対象106名にアンケートを実施した。回収率は100%、多くの人が意見も書き込み、関心度の高さも伺える。ごみを排出する3市町村の人口8万人のうち、何人が灰溶融炉という言葉を知っているのだろうか？

町がこんな発言で・・・？

ある会場で、富士見町の が、「旧焼却炉の解体に、国の補助をもらって事業が始まっている。今やめたら、今まで使った2億2千万円を返さなければならないので、やめるわけにはいかない。」と、脅しとも思えるような発言をしたようだが、その2億2千万円の内訳のうち、「解体費用」と「バックホー」だけが交付金の対象事業で、それも1/3の補助。つまり、建設を中止しても返還額は、7,470万円。**富士見負担は、1,656万円のみ。**もし、代わりにリサイクルセンターなどを作れば、返還の必要はない。

それにしても、毎年**5億円**も維持費がかかるかもしれない灰溶融炉に比べれば、安いもの(?)かもしれない。もともと、旧焼却炉はいつか解体しなくてはならないものだったのだし、バックホーは残っているのだし・・・。

御代田町の町長選で、溶融施設計画の見直しを訴えた候補が初当選。

2月18日、現職を大差で破り、当選した茂木氏は、軽井沢町、小諸市と共同で進めている可燃ごみ処理施設建設計画(溶融施設)について「**水源地であり、駄目だ**」と白紙に戻す考えを表明した。

富士見町のおいしい水も同じ、大切な水源地に煙突からの汚染がちょうど降りかかる。

今からでも、灰溶融炉から他の施設に変更ができる

今回の灰溶融炉建設に関する国からの補助金(事業費の3分の1)は、循環型社会形成推進交付金というもので、灰溶融炉だけに限るわけではなく、むしろ、循環型の施設を推奨するもので、かなり幅広い用途に適応する。ましてや、期限があるわけでもないのだから、住民の意見を入れたごみ処理計画を作って「燃やさないごみ処理」を実施するべきだ。

最終処分場がH20年で満杯って本当？

組合は、灰溶融炉建設の理由を、2ヶ所の最終処分場(休戸、笹原)が同時に満杯になるので、猶予期間はないと説明しているが、実際に資料を取り寄せてみると、H22年までは余裕がある。今からごみ減量を徹底すれば、さらに延命、その間に代替案も可能だ。

【反省】茅野市の最終処分場は、計画予定でH17年に満杯になるのがわかっていたはずなのに、こんな土壇場になって、灰溶融炉に頼るしかないなんて言われても…あまりにも対応が遅すぎるのではないだろうか？

H17年から茅野市の焼却灰も急速休戸に運搬しているが、それがなければ、休戸の最終処分場は、H30年までは余裕があったはずだ。そして、もっと早くから減量化政策があったなら、かなりの延命は可能だったのに…。

公害防止協定は有効だろうか？

福井県の例では、敦賀市の産業廃棄物処理場の公害が発生した際に、すでに結ばれていた公害防止協定をもとに、住民は「廃棄物の撤去」と「損害賠償」を、敦賀市長に求めたが、市長の答えは、「公害防止協定は、紳士協定(相手を信用してする口約束)に過ぎないので、「廃棄物の撤去」も「損害賠償」もできないということだった。住民は「公害防止協定は何のために締結したのか。」と悔しさをにじませている。

また、諏訪南組合が提示している公害防止協定は、細部が何も書かれておらず、白紙委任のようなもので、万一の時には何の役にも立たない。むしろ、今のような段階で調印したなら、建設に同意したものと判断される危険なものだ。協定を結ぶにしても、機種が決まってから、専門家を交えてというのが、常識だろう。なぜ、今なのか？

次の住民説明会っていつ？

昨年10月の第4回住民説明会で、納得のできない多くの住民に対して、矢崎組合長は第5回目を開催すると約束の元、多数の質問者を残して、質問時間をたった1時間で打ち切った。開催の様子がないため、1月に日程の問い合わせをしたところ、西沢所長より、3月末までにもう一度開催すると回答を得た。

しかし、3月も半ばの今現在、その言葉、本当に信じていいの？ やっぱり、うそ？

溶融炉ニュースいろいろ

- 平成 18 年 12 月 山梨県 溶融スラグ入りブロックの利用実績は、1年半で 10.1%
- 平成 19 年 1 月 宇都宮市 大谷石採掘場跡を溶融スラグの埋め戻し特区として国に申請する件、住民反対で9回の見送り
- 平成 19 年 2 月 寄居町 溶融スラグ保管場所の雨水排水口から、基準値のダイオキシン 6.1倍、ホウ素5倍、鉛27倍の濃度検出、灰熔融炉の煙突からも通常の6倍のカドミウム、六価クロームが吹き出された。
- 平成 19 年 2 月 岸和田市、貝塚市 4月の稼働を目の前にして、耐火煉瓦などの維持補修として、5年間で53億円の追加予算計上

溶融炉に詳しい岩佐恵美氏によると、市や施設側は、事故やトラブルに関して通報も公表もしたがらないので、実際はあまりニュースにならないという。

現に、静岡市の灰溶融炉爆発事故では、消防に通報したのは、爆発30分後、近くの住民だったという。稼働3ヶ月で炉内耐火物が9割もすり減っていたということだ。

福山市でも、溶融炉の火災時、職員は通報せずに、釣り人が消防に通報している。

灰溶融炉の疑問点いろいろ

- ・最終処分場の掘り起こしをして溶融するような事例は、全国でもほとんどない。
- ・建設予定地は、地質が脆弱で、すぐそばに断層もあり、適地ではない。
- ・茅野市の2ヶ所から、灰を運搬してくることは、効率が悪い。
- ・生活環境影響調査に約4000万円使っているが、建設を前提の調査で、信頼性が低い
- ・事故、トラブルが多発し、爆発事故も起きている。
- ・1,300℃という高温になるので、有害重金属やダイオキシン類似物質などが排出されるが、これらは、バグフィルターを通過しやすく、また排出基準の対象になっていない。
- ・ダイオキシンを年に一回、4時間のみの測定しか実施しない。
- ・スラグの安全性に疑問があり、また、公共事業で使うことが危険性を増幅させる。
- ・スラグを埋め戻した場合、減容効果は、殆ど期待できないため、建設の意味がない。
- ・建設費が23億円と相場の2、3倍高い。国庫交付金は3分の1。
- ・年間維持費は3～5億円予定、実際はいくらかかるかわからない。補助金はない。
- ・事故、故障で休炉していても、お金はかかり続け、稼働中止になったら交付金の返還要
- ・機種に多少の差はあるが、1時間にドラム缶2～4本も石油を使うため、大量の二酸化炭素を排出し、地球温暖化に拍車がかかる。
- ・反対運動に対する地元対策費が、全国で年間20億円も使われているという。私たちに、一向に話しがたいが・・・どこに？急いでいる自治体ほど疑わしいと言う話した。

4月から3市町村で廃プラ分別回収開始。

4月から3市町村で、廃プラスチックのリサイクル回収が始まる。焼却ごみの埋立量の内訳は、紙46.6% プラスチック17.9% 生ごみ11.2% 木竹わら類9.2%で、全体の85%を占めている。どれも資源になる。これらを徹底分別すれば、即最終処分場の延命になる。茅野、富士見、原のごみ減量化競争に期待したい。

リサイクル率 (15年度)	茅野市13.7%	富士見町15.5%	原村20.1%
一人当たり一日ごみ排出量	茅野市 1070g	富士見町 892g	原村 733g

『参考までに、ごみゼロ宣言をした徳島県上勝町では、一人当たり家庭系ごみ 106g』

ごみ処理費用は、従来でもかなり高額だが、灰溶融炉を導入すると、その分上乘せとなり、驚くような負担額になる。(1世帯あたりの年間ごみ処理費用)

平成15年度費用 茅野市 28,243円 富士見町 32,548円 原村 42,202円

灰溶融炉維持管理費 茅野市 14,642円 富士見町 19,630円 原村 29,630円

灰溶融炉の導入と同時に、ゴミ回収を有料化して直接住民にも負担させる予定だ。

3月組合議会で判断

この1年間あまり、私たち「八ヶ岳周辺のごみ問題を考えるネットワーク」は、数回に渡って専門家による講演会などを開催した。そんな勉強を重ねる度に、「灰溶融炉みたいな施設は、絶対に造ってはいけない」と確信は強まるばかりだった。そして今年になって、建設予定地の地元である休戸区、花場区、大武川区が建設の反対を表明した。反対住民は、もう少数派ではないはずだ。

3月後半に諏訪南行政事務組合の議会がある。そこで、もうすぐ、4月に任期の切れる組合長や組合議員が、住民の反対を無視して、強行的に建設決定を下すなんてことが、もし、あるとしたら、今の時代、許されるのだろうか？

この際、住民の健康、財政、環境を考えて、灰溶融炉は中止にして、対立をやめ、仲良く、公民協働で真剣にゴミのことを考えていけたら、さぞ理想的な地域になるだろうに。

お知らせ

3月24日(土) 9時~12時 富士見コミュニティプラザ2F AVルーム

昨年11月に開催した、ごみ弁連会長の梶山弁護士講演会のDVDを上映します。

灰溶融炉のことがよくわかります。是非ご参加ください。 問合せ(66-2960)

発行:八ヶ岳周辺のごみ問題を考えるネットワーク(H19年3月8日号)

連絡先:〒391-0108 原村 16267-101 電話 0266-79-6977 小林峰一

灰溶融炉を考える会 ブログ <http://yoyuro.blogspot.com/>